准教授　**長屋　尚典**　NAGAYA,　Naonori

1.　略歴

2000 年 4 月	東京大学教養学部文科三類入学
2004 年 3 月	東京大学文学部言語文化学科言語学専修課程卒業
2004 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野修士課程入学
2006 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野修士課程修了
2006 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野博士課程入学
2006 年 4 月	日本学術振興会特別研究員 DC1（東京大学大学院）（～2006 年 8 月）
2006 年 8 月	アメリカ合衆国ライス大学（Rice University）言語学科博士課程入学
2009 年 9 月	東京大学大学院人文社会系研究科言語学専門分野博士課程退学
2011 年 9 月	国立国語研究所言語対照研究系 PD フェロー（～2012 年 3 月）
2011 年 12 月	アメリカ合衆国ライス大学（Rice University）言語学科博士課程修了（Ph.D）
2012 年 4 月	日本学術振興会特別研究員 SPD（国立国語研究所）（～2013 年 3 月）
2013 年 4 月	東京外国語大学総合国際学研究院 専任講師
2018 年 4 月	東京外国語大学総合国際学研究院 准教授
2019 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
2021 年 10 月	東京大学ヒューマニティーズセンター HMC フェロー（～2022 年 9 月）

2.　主な研究活動

a　専門分野

言語学、言語類型論、フィールド言語学

b　研究課題

オーストロネシア諸語、特に、フィリピン・インドネシアで話される諸言語を中心に、言語類型論の観点から、その文法構造について研究している。具体的には、タガログ語とラマホロット語（東インドネシア、フローレス島）について、その文法関係やヴォイス現象、情報構造、空間表現を研究し、言語類型論についての貢献を目指している。言語調査においては、フィールドワーク・実験を重視し、実際の談話や会話を撮影・録音することで、経験的事実に基づく記述・一般化を試みている。

c　概要と自己評価

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって海外調査が実質的に不可能になったため、研究課題はそのままに、すでに収集したデータやオンライン・コーパスを使用した分析に研究の中心を移した。たとえば、タガログ語の自然会話コーパスを用いた疑問詞 *ano* 'what' の研究（Beyond questions: Non-interrogative uses of ano 'what' in Tagalog）やラマホロット語の空間表現に関する研究（Directionals, topography, and cultural construals of landscape in Lamaholot）などを行った。

さらに、個人研究に加えて国内外の研究者や本学大学院生との共同研究にも力を入れた。その結果、タガログ語の音韻論について新たな観点から分析を提示したり（Ludlings and phonology in Tagalog）、トルコ語などの移動表現について実験研究の成果を発表したり（Variation in the encoding of motion events in Turkish;「複数局面を含む移動事象表現と言語類型論：日本語と他言語の比較」）することができた。

この期間中には、新たに可能となったオンライン学会やオンライン講演会を通して、海外や日本国内の方々に広く研究成果を発表することができた。また、日本言語学会論文賞や The Br Andrew Gonzalez FSC Distinguished Professorial Chair in Linguistics and Language Education を受賞するなど、これまでの研究を評価していただく機会にも恵まれた。

d　主要業績

(1)　著書

共著、長屋尚典、「会話のなかのタガログ語文末助詞 e」、中山俊秀・大谷直輝（編）『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点：用法基盤モデルに基づく新展開』267-290. 東京：ひつじ書房、2020

共著、松本曜, 鈴木唯, 高橋舜, 谷川みずき, 長屋尚典, 吉成祐子、「複数局面を含む移動事象表現と言語類型論：日本語と他言語の比較」、窪薗晴夫・野田尚史・プラシャント パルデシ・松本曜（編）『日本語研究と言語理論から見た言語類型論』178-205. 東京：開拓社、2021

⑵　論文

Naonori Nagaya, Suzuki Yui & Enomoto Emi、「Variation in the encoding of motion events in Turkish」、『NINJAL Research Papers』、19、1-30 頁、2020

Naonori Nagaya、「Reduplication and repetition from a constructionist perspective」、『Belgian Journal of Linguistics』、34 (1)、259-272 頁、2020.12

Naonori Nagaya & Hiroto Uchihara、「Ludlings and phonology in Tagalog」、『Asian and African Languages and Linguistics』、15、9-20 頁、2021.3

Naonori Nagaya、「Directionals, topography, and cultural construals of landscape in Lamaholot」、『Linguistics Vanguard』、8(s1)、25-37 頁、2022.1

Naonori Nagaya、「Beyond questions: Non-interrogative uses of ano 'what' in Tagalog」、『Journal of Pragmatics』、190、91-109 頁、2022.3

⑶　学会発表

国際、Naonori Nagaya、「The middle voice in symmetrical voice languages: Toward a diachronic typology」、53rd Annual Meeting of the Societas Linguistica Europaea、SLE 2020 Platform、2020.8.26

国際、Naonori Nagaya、「Teaching the Filipino Language in Japan」、INTERSECTIONS: International Conference on the Shared Histories and Cultural Heritage of Japan and the Philippines、online、2020.11.6

国内、吉田樹生, 島健太, 鈴木唯, 谷川みずき, 林真衣, 細羽洸希, 諸隈夕子, 長屋尚典、「日本語と世界の言語における単複と頻度の関係：言語類型論的コーパス研究」、Prosody & Grammar Festa 5、国立国語研究所、2021.2.21

国際、Naonori Nagaya、「Usage-based Philippine linguistics」、Br. Andrew Gonzalez FSC Distinguished Professorial Lecture in Linguistics and Language Education、Linguistic Society of the Philippines (LSP) and the Br. Andrew Gonzalez FSC College of Education (BAGCED), De La Salle University, online、2021.3.6

国内、長屋尚典、「タガログ語における thetic/categorical 判断と情報構造」、言語の類型的特徴対照研究会、オンライン、2021.4.3

国際、Naonori Nagaya、「Morphosyntactic and phonological constituency in Tagalog」、International workshop on constituency, wordhood, and the morphology-syntax distinction: description and typology、CNRS-DDL, Lyon II - ONLINE、2021.4.28

国内、長屋尚典、「タガログ語における thetic/categorical 判断：主題の対照研究」、ドイツ文法理論研究会、オンライン、2021.6.6

国内、長屋尚典, 林真衣, 細羽洸希、「ウェブデータから言語変化を捉える：タガログ語の sana all の分析」、日本言語学会第 162 回大会、2021.6.26

国際、Naonori Nagaya、「Two ways of requesting confirmation in Tagalog」、17th International Pragmatics Conference、Online、2021.6.28

国際、Naonori Nagaya、「Category change and nominalization in Tagalog: A constructionist approach」、11th International Conference on Construction Grammar、University of Antwerp, Belgium、2021.8.19

国内、長屋尚典、「「右」も「左」もない言語と言語類型論」、東京大学ヒューマニティーズセンター 第 49 回 HMC オープンセミナー、オンライン、2021.12.17

国内、長屋尚典, 鈴木唯, 谷川みずき, 林真衣, 諸隈夕子、「移動表現における多重表示の冗長性と類型論」、Prosody & Grammar Festa 6、Zoom、2022.1.30

国際、Naonori Nagaya & Mai Hayashi、「The dynamics of sana all in online interactions」、The 4th LSP International Conference (LSPIC 2022) and the 21st English in Southeast Asia International Conference (21ESEA)、Online、2022.3.12

⑷　啓蒙

長屋尚典、「英語は特殊な言語で, 日本語はありふれた言語」、『ラボの世界』、290、8 頁、2020

⑸　会議主催

国際、「The 31st meeting of the Southeast Asian Linguistics Society」、実行委員、University of Hawai'i at Mānoa、2022.5.18～2022.5.20

⑹　受賞

国内、長屋尚典、2020 年度 日本言語学会論文賞、Best Paper Award 2020、「The thetic/categorical distinction in Tagalog revisited: A contrastive perspective」、「The thetic/categorical distinction in Tagalog revisited: A contrastive perspective」、日本言語学会、Linguistic Society of Japan、2020.11.22

国際、Naonori Nagaya、The Br Andrew Gonzalez FSC Distinguished Professorial Chair in Linguistics and Language Education、The Br Andrew Gonzalez FSC Distinguished Professorial Chair in Linguistics and Language Education、Linguistic Society of the Philippines & De La Salle University、Linguistic Society of the Philippines & De La Salle University、2021.3.6

国際、Naonori Nagaya、名誉会員、Honorary membership、フィリピン言語学会、Linguistic Society of the Philippines、2021.3.13

(7) **資料・データベース**

『Transitivity pairs in Tagalog』、長屋尚典、2020

3. 主な社会活動

(1) **他機関での講義等**

特別講演、第 95 回五月祭、「空間と言語：ことばの多様性入門」、2022.5

(2) **学会**

国際、Linguistic Society of the Philippines、Editorial Consultant (Philippine Journal of Linguistics) 、2020～

国内、日本言語学会、編集委員、2021.4～

(3) **学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員**

教育機関、東京言語研究所 理論言語学講座、運営委員、2020.4～

教育機関、フィリピン大学ディリマン校、外部評価委員、2022.1～2022.7

民間企業、Brill、Endangered and Lesser-Studied Languages and Dialects シリーズ編集委員、2022～